

広報ひらつか

特 集 号

昭和56年3月31日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画部広報課
毎月15日／85,000部／全世帯配布（一部5円）／昭和31年10月3日

浅間町9番1号
電話（23）1111—代表
第三種郵便物認可 郵便番号254



未来へ大いなる飛躍を

資源とエネルギー問題を契機に、社会・経済のあり方を問われた一九七十年代も過ぎ去り、それを克服し新しい時代への展開をはかる八十年代を迎えました。こうしたなかで、市民意識は、物質的な豊かさを求める風潮から、生活の向上を目指す方向へと大きく流れを変え、人間性豊かな生活環境を求めて着実にその一歩を踏み出しております。うるおいのある日常生活を築くためには、いままでも増してよい環境づくりが必要であり、また多様化する市民のニーズにこたえ、きめこまかな行政サービスを推進することが必要となつていきます。

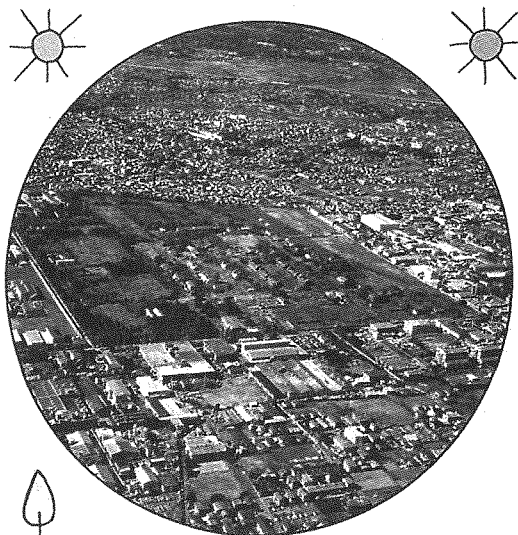
これにこたえるため、第一次平塚市総合開発計画を昨年スタートさせ、市民一人一人が健康で、幸せな生活ができる都市としての環境づくりを基調に、「自然を愛し心ふれあう明るく住みよいまちひらつか」を目指して取り組んでいます。

昭和七年四月一日に誕生した平塚市も四十九歳になり、来年は五十周年を迎えます。この記念事業として、仮称中央公民館の開館やごみ焼却の余熱を利用した仮称東部福祉会館の建設、石と水と緑をテーマにした文化公園とお祭り広場の建設など、後世に残るような事業をいろいろ計画しています。

また、この記念すべき年を市民ごぞつてお祝いしようと、市民憲章や市の木・市の花の制定、姉妹都市の締結、市民休暇村の選定などの行事が市民参加のもとに決められ、五十六年度中に決定することになっていきます。

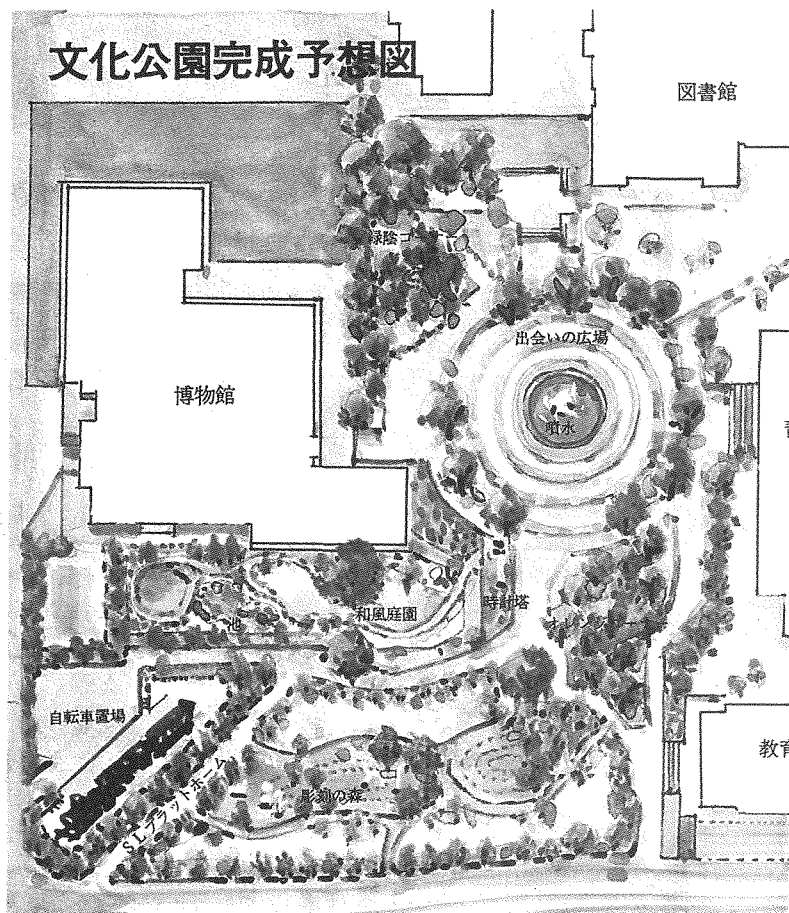
一方、二十一万市民の切なる願いである果樹試験場跡地は、みなさんご協力により、近く確保できる見通しとなりました。これから東海大学に委託したマスタープランを基礎として、跡地利用の構想をまとめることとなりますが、防災面を兼ねた総合公園にしようと考えています。払い下げについては、一日も早く用地の確保が実現できるよう関係機関と折衝を進めていますので、これからもみなさんの温かいご協力をお願いいたします。

明るく住みよいみんな



昭和の城づくりを目指して

農林省の果樹試験場跡地が京波へ移すことが決まってから平塚市の総合公園にと、10万人署名運動や協議会による払い下げ運動を進めてきたが、大蔵省の中央審議会から市に払い下げが決まり、目下関係機関と折衝を進めている。跡地利用は、55年度に東海大学へ委託していたマスタープランができたので、これを基礎に英知を結集して、成案を取りまとめているが、防災面を兼ね備えた総合公園が考えられている。一日も早く「昭和の城づくり」が実現するよう、みなさんと一緒に見守っていききたい。



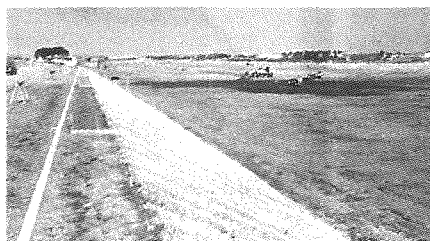
文化センターの敷地に、昭和44年デゴニを迎え、45年に図書館を46年に青少年会館、51年に博物館、55年に教育会館を建設し、文化の殿堂としての建物は一応整備された。最後に残されたこれらの建物を総合文化公園50周年事業に併せて施工されることになった。文化公園は、「石と水と緑」を基調としながら、公園と庭園を含めた約8000㎡について、56年度から57年度の2か年継続事業で整備される。公園の内容としては、文化センター中央に出合いの広場を設け、その中心に大円形の噴水を造る。デザインは、周囲4館を象

徴するものとし、池から湧きあふれる波も飾装したれを本市全体の文化発展へと考えた位置づくりをし、広場西側図書館前には、読書、談話、思案、休憩、陰コーナー、博物館には、落ちついたふんいきの日央南側には、文化と芸術の趣をさそう彫刻の森、南ホームのあるSLコーナーなどを配し、さらに民間と一帯の緑豊かな環境となるように計画されているイラスト



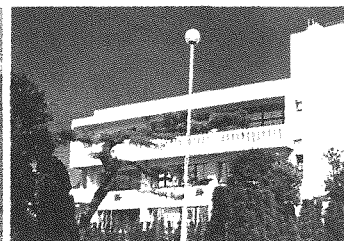
小学校にプールの建設

子供たちが待ち望んでいた小学校プールが完成した。今回プールが整備されたのは、勝原小、真土小、城島小および八幡小の4校である。このプールは25㎡のアルミ製で、災害時には飲料水として利用できるような非常用ろ過装置が設置されている。これに引き続き、富士見小、金田小、横内小、阿部小、土屋小の5校にプールを設置すべく準備が進められている。小学校プールについては計画的に整備を進めているので、他校の皆さんにはもう少し辛抱をお願いしたい。



続々整備されるスポーツ広場

早朝野球や少年野球など、大いに利用されている大神スポーツ広場には、野球場が2面造成され9面となり、水泳施設も整備された。また、仮称長瀬青少年スポーツ広場（野球場）が完成した。



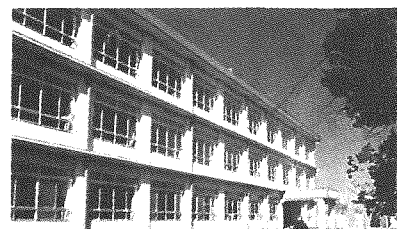
働く人のふれあいの場 勤労

働く人たちのコミュニティづくりの場として、勤労オープンした。いつでも、だれでも自由に談話、休むことができる談話室をはじめ、サークル活動等に使える



真冬でも真っ赤なトマトを

省エネ時代にふさわしい施設野菜省エネハウスが完成した。この施設は、太陽熱を地中にためて利用する地中熱交換方式で、日本の風貌を誇っている。温度調節はマイコンコンピューターが行い、毎日真っ赤なトマトが収穫されている。



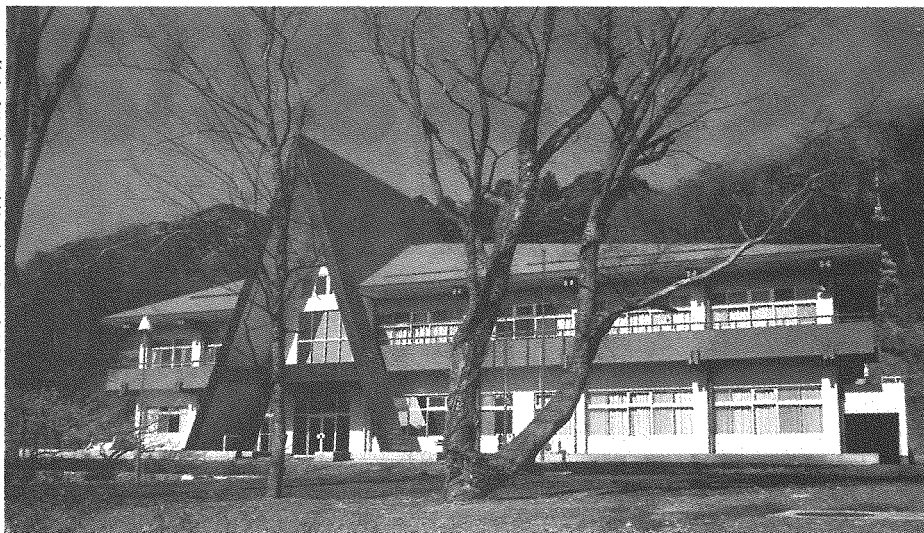
第3金旭中学校の建設を

教育効果を高めるため、中学校の校舎や講堂、体育館などの教育施設の整備を進めている。また、懸案だった仮称第3金旭中学校を、金目地区に新設する計画である。老朽校舎も崇徳小学校に続き、55年度で春日野中学校の建て替えを行い、56年度では浜田中学校を予定している。

—写真は春日野中学校—

七月一日にオープン

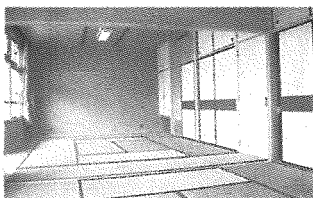
このほか、本市初「青少年健全育成のための本格的な宿泊研修施設」平塚市びわ湖青少年の家が、市内土屋二七〇一に完成した。完成した「びわ湖青少年の家」は、青少年が青少年健全育成関係者に恵まれた自然環境のもとで共同生活を通して自ら、創造、協調などの研修活動を推進してもらうもの。また、青少年にいろいろな体験学習をおして豊かな心と健康な身体を養うことを目的に建設されたもので、七月一日にオープンする。



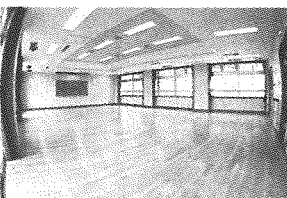
赤い三角屋根が象徴するびわ湖青少年の家



明るくきれいな食堂



子供たちが宿泊する和室



研究室 ときにはキャンドルファイアも

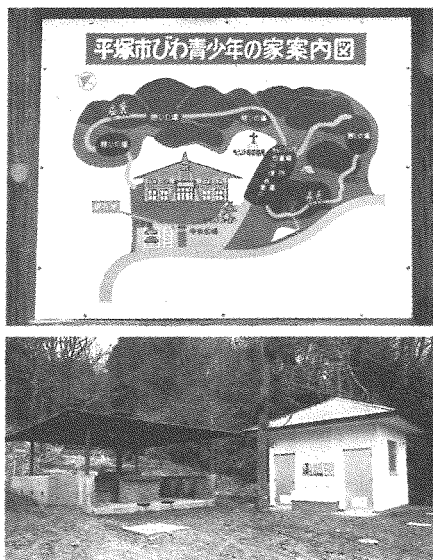
びわ青少年の家

びわ青少年の家

みどりの中の楽園！



野外食卓 みんなと一緒に野外の夕食を



野外炊事場 子供たちの楽しい食事のしたくはここで



散策路 約650メートルの散策路がある

子供たちの体験学習に

4月20日から受け付け

合わせ、おと金一萬千円
 ●利用促進人
 又八丁の地で、市内在
 在、在の青年は、増少
 年輩の減少、中学校の
 教育の場として利用する。
 ●利用費
 又窓辺の敷地 一団地六名内
 又キツノ施設 五十名内
 ●利用期間
 又二泊三日以内の利用する。
 だし、夏休み期間中は一泊三日
 まで。
 ●利用時間
 又キツノ場の開設は、原則し
 て七月一日から八月二十一日
 まで。
 休日の午後五時
 まで。
 又八丁少年の会(電話〇八
 七七一)が、青少年育成協
 会(電話二四八五)
 四月一日は朝会室にき
 休日の午後五時

建設は、五、五四の程度

子供たちの体験学習に

4月20日から受け付け

ただし、本学で限って、四月二十日(金)から受け付けを始める。願書と、申込書(八頁)の提出願に決定。

①募集の期間(四月二十日、八日、二十日)は、特に少年団体(子ども会)の用を優先し、一泊三日を原則とする。

②申し込みは、四月二十日(金)までの五日間受け付け。

なお、申し込みが効力するところ(希望する)で、利用申込代表が立合ひのうえ、四月十七日(日)午後二時から青年の家で公開聴取会を決定。

●書類について

①青少年の家は、利用者の目的が原則。(調理施設は完備)

●青少年の家までの交通

[illegible]